

主の前に静まるシリーズ

「②大自然を楽しむ」

詩篇 8篇

2018.8.19 HKJCF

1

概観

自分自身の存在意義を見失う時、神に造られた大自然に出かけて、天体や動物や植物を眺め、静まることを通して、自己価値を再確認することができる。

アウトライン

1. 神様の威光と主権 V1-V2
2. 人間の価値と使命 V3-V6
3. 動物の存在と立場 V7-V9

2

1. 神様の威光と主権 V1-V2

- 1) 私たちの主、主よ: 独特なスタート。全地にわたる力強い主権; 1節と9節は同じ。私と神の関係を思い巡らすきっかけ。
- 2) 神のご威光: 神の創造の御業をきちんとほめたたえる習慣⇒創造主のすばらしさ。
- 3) 幼子と乳飲み子の口: 子どもの口の賛美⇔敵対する力(マタイ 21:15-16)。
- 4) 神の主権: 神と敵対する力の存在; 敵は必ず鎮められる確信。

3

2. 人間の価値と使命 V3-V6

- 1) 指のわざ: 神の積極的な関わり; 月や星ではなく、神を礼拝する(イザヤ 40:26; 45:18)。
- 2) 心に留める、顧みる: זָכַר(zakar)と
פָּקַד(paqad)⇒神のケア(ヨブ 7:17-18; 詩篇 144:3); 神の愛の細かさ⇒宇宙の一人のために。
- 3) 人間の価値: 神>人>被造物; 神の形(創世記 1:27); 神の業による価値。
- 4) 人間の使命: 共同支配者として立てられた(創世記 1:28); 世界の救済(ローマ 8:22)。

4

3. 動物の存在と立場 V7-V9

- 1) 家畜、野の獣、空の鳥、海の魚: 人間の支配範囲に注目=身近な所→海。詩人は人間の縦と横の関係を表現。
- 2) 動物の観察・研究: 神の創造のすばらしさを見出すこと; 人間の自己価値、神様の主権が確認される⇒心の平安(マタイ 6:25-30)。
- 3) 人間の存在のパラドックス: 地から: 土地のちり; 動物と同じ⇔天から: 神の形と命の息で。王族としての権限と責任を理解。

5

適用

- 1) 大自然に出かける習慣: 年に最低四回、大自然に出かけて、神様と、人と時間を過ごし、交わりを持つように。
- 2) 大自然の中で神を賛美する習慣: ただ神の創造のすばらしさだけでなく、細かい愛で守って下さることをほめたたえる(詩篇 103:22)。

6